

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

事業所番号	0692600034		
法人名	(株)ジェイパック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん 高島		
所在地	山形県東置賜郡高島町大字深沼191番地の3		
自己評価作成日	平成 27年 11月 9日	開設年月日	平成 22年 11月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の尊厳や思いを理解し、施設の生活で出来る事を気がねなく実施していただき、理想のグループホームに近づけるように日々努力しております。また、施設での出来事などは”もも太郎さん便り”にて御家族様に郵送しており、御家族様と常に密着し困った事でも相談し合える環境となっております。これまでの関係をたち切らないように配慮し、職員はケアをさせていただいている感謝の気持ちで取り組んでいる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景を眺め、季節毎の作業を思い出しながら、利用者は職員と屈託のない会話で冗談を言い合い更に笑顔が広がりが穏やかに過ごしています。互いの労をねぎらい合う「ありがとう」の言葉が自然に交わされ、ここをも一つの家と思ってもらえるように利用者の思いを大切に受けとめ自由な生活を支援しています。新企画「もも太郎ピック」開催は職員の頑張りや利用者・家族等・地域と一緒に巻き込み盛りだくさんの内容で笑いと喜びの一大事業になりました。これからも家族の絆を深め、もっと地域に密着した関わりを多く取り組んでいこうとしている事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 27年 12月 2日	評価結果決定日	平成 28年 1月 6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	接遇スローガンを作成しており、その項目の内容から個人の振り返りをする時期を設けており、時には面談等を実施し実践に繋げている。	利用者・家族等の笑顔が満足の表現と受け止め、職員は接遇スローガンを基に個人目標を掲げ、厳しい自己評価をし管理者の評価を加え、意識を確認しながら向上心を培っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の理解を得られるように、施設発信で行事やイベントの参加をつのっている。また、地域行事にも積極的に参加して交流が深まっている。	3地区に重なって立地しており、各地区と事業所通信、回覧板で情報の交流を図っている。利用者は催しに参加し、毎月の歌謡会ボランティア来訪を楽しみにしている。「第一回もも太郎ピック」は家族等・地域の協力を得て成功を収めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方の支援方法や、具体的事案等を話し合いを実施して地域貢献をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1度会議を実施し施設の現状を報告している。また前回実施された課題等の報告もしておりそれに対して意見や助言を頂き活かしている。	事業所の現状報告だけでなく、風邪予防対策やマイナンバー制度の質問など意見交換をしている。地域の理解と協力を得る機会であるが、家族等の参加が少なく、又固定的になりがちな会議の持ち方を今後の課題としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町行政の方との連携ができており、常に連絡相談できる状況にある。また、町内の施設での出来事等の連絡もいただき参考にさせていただいている。	日頃から双方の連携は保たれており、事業所の状況を理解してもらっている。町主催の研修会参加や相談助言はケアの見直しの機会となり技術向上にも繋がっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員全員が身体拘束について理解できている。職員は常にホール全体と玄関つながる廊下を見守りできる立ち位置に配置しており、玄関、居室は施錠していない。徘徊や介助が必要な方がいれば都度寄り添って対応する事で欲求を満たして頂いている。	言葉の使い方一つでも該当し、何が拘束か全員で確認の学習会を重ね共通理解となっている。時期により落ち着いた利用者には、適切な声掛けや一緒に出かけるなどして、一人ひとりにあった対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度実施される町主催の高齢者虐待防止連絡会に参加し資料をもとに定期的に報告、勉強会を実施し職員の意識向上を図っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の資料があり、職員全員がいつでも確認できる状態にある。また、年間の勉強会の予定にも組み込まれており学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書の重要事項説明書の内容を読み上げ同意を得ている。不安や疑問点があれば説明も実施している。また、個別に相談を受けるなどして、安心していただけるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を気軽に発していただけるように”意見箱”を設置している。入居者だけではなく、御家族様に面会時、利用者様の近況情報などの話す事になっている。	家族等へ毎月「もも太郎便り」を送り、訪問時にも利用者の状態を見ながら意見や要望を伺う機会を設けている。不安な事を聞くなど信頼関係を築き、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例のミーティングとユニット会議を実施し、職員同士何でも話あえる環境で自由に意見をだし、意見交換をして聞く機会を設け運営に反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、リーダーは職員と常に話合える環境が確立されており、施設全体の状況の把握を行っている。また、職員の意見を反映し環境、条件等の配慮するようにして生き活きた職場環境作りに努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協の研修を段階に応じて参加している。また、参加者は復命書を通して勉強会にて共有、意見交換にて向上の機会をもっている。	管理者は何でも話し合える機会を設け、職員同士も注意し合える環境にある。ストレスケアの把握に努め配慮しながら、常に向上心・学ぶ姿勢を大切にしている。研修受講や資格取得の助成制度もある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協会参加にて他施設より職員の研修を実施している。他施設の情報や状況を確認し自施設でも共有できる体制がある。また、法人内での研修も実施している。		法人内の研修や職員交換会、地区グループホーム協会の研修会や他事業所との交換研修に参加している。対応の比較や新たな気づきを参考にして、レクリエーション活動の充実と日々のケアに役立っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査やアセスメントで本人の今までの生活、最近の生活について情報を頂いている。また、他介護サービス・医療機関からも情報を得ており関係づくりに努めている。		/	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃の面会時に近況報告し不安な事や要望をうかがっている。施設行事参加のお誘いも実施し来訪された際、ケアプランの説明を通じてご家族様から同意を得ている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査からの得た本人のニーズによって現時点で可能なサービスを見極めて判定し結果をお伝えするようにしている。入居可能であればできる事から支援できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを踏まえ、調理や季節行事を行う際には、入居者様が主体となり職員が学ぶ場面をつくり互いに協働できる関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様にはコメント入りにて”もも太郎さん便り”を発行し近況報告を実施。また体調変化時報告し状況によって通院の立ち合い等も実施している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が今まで生活されていた馴染みの場所に行く等、いつでも思い出して頂けるような支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しみを共有できるようレク等を工夫して、ユニットを越えた関わりや交流ができる様な支援をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になられた利用者・ご家族様でも経過を伺いながら、途切れない支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方が何を望んでいるのか日々のふれあいの中での情報を担当者を中心に共有するように努めている。	日頃の関わりの中で馴れ合いの言葉遣いでなく、目線に留意し本音で話し合い、深い思いを汲み取るように心掛けている。聞き上手で相談事にのることもある。本人の思いはユニット会議や朝礼で情報を共有しケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時に近況報告しあらたな情報を得た事を記録しユニット会議などで職員間での情報共有している。不明な点があればご家族様に確認実施し把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに声掛けをしながら顔色・表情等の変化を確認している。状態や気分に合わせて生活できる様にソファ等を設置し休んで頂けるよう工夫している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度定例のユニット会議を実施し担当者を中心に他職員からでた意見も取り入れながら現状に適した介護計画を作成している。	担当職員は生活リズムの些細な変化を見逃さず、本人・家族等の意見や要望を聞いている。本人の意志を尊重し満足な表情を確認しながら、安全な暮らしと今できることの継続をめざしてプランの作成に取り込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援計画の実践・結果・に日常生活のささいな事、認知症の症状について個別記録に記入している。ユニット会議で情報共有し生活支援計画に活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのふれあいが持てるよう施設行事に参加していただき利用者様と地域の方とのふれあいを持てるようしている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族様が希望する病院に受診できるよう支援している。また、体調変化などには、協力医療機関に連絡し指示を仰いでいる。	かかりつけ医受診は、家族対応を基本とし日常の様子を説明、書面にして医師への情報としている。事情によって担当者が付き添う場合もある。結果は口頭で受けケース記録に記入、共有している。服薬は、複数職員で確認し誤薬防止に努めている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診前に状態の変化や相談したい内容についてまとめ、指示・助言等を共有できるようにしている。また、電話でも随時相談できるような関係づくりを行っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院やご家族様と早期退院に向け面会等を実施し必要であれば病院相談室にて情報交換を実施している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針等がなく現在終末期までの体制が整っていない状況にあるが、ご家族様と医療との連携で協力体制の確立に努めている。	利用者の生活機能の低下が見えてきたときは、往診など協力医にもかかわってもらい、家族等とも協力が得られるよう話し合いを続けている。看取り等の指針はないが、職員も向上心を持って関わりを持つよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED装置の活用等・消防署の方を招いて急変時の対処方法を学んでいる。また避難訓練などで実践に向けた通報訓練等を実施している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署員の方の助言を頂き、避難訓練を行い利用者様の安全な避難方法を確認実施している。また近隣の方の訓練参加もあり協力体制もある。	年2回、消防署立ち合いのもと、訓練をしている。民生委員に見守りの協力をしてもらい、利用者の避難の様子を家族等に見てもらっている。持ち出し物の確認や備蓄品一覧表に沿った物品の点検も行い非常時に備えている。	今月夜間訓練を予定しているが、実際に夜行う事で気が付かなかった事柄も出てくると思われる。地域の方の協力を得ながら利用者の安全を守る体制を考え、安心を与えるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の促し方など、ご本人しか分からない様に耳元でささやいて確認する等工夫して配慮し実施している。	職員は表情をよく見て話を聞いたり、毎日の暮らしの中で他の利用者とは行き違いが起こらないよう気配りし、気持ちの動きを見るように心掛けている。写真の利用にも同意をもらい個人情報の保持に努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思い等を表現できる環境を作っており、またその希望を可能な限り添えるような働きをしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が常に自分自身の希望を表現をできるように声掛けをしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の組み合わせ等、髪形も利用者様の意見をお聞きし視聴している。また、行きつけの理容店に行ったり、おしゃれができるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃では味わえない希望のお弁当などで楽しんで頂いている。また、食事作りに関しては調理から盛り付け、下膳等御利用者様が出来る範囲で職員と協力しながら実施している。	食材の買い物は、食のたのしみに繋がる事で一日置きに、利用者も交替で行き、片付けも手伝っている。弁当屋のメニューから好きな物を注文する日もあり行事食と共に楽しみにしている。利用者の状態にあった具材の切り方や絵柄を統一した食器の使用など、細やかな気遣いが見られる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を作り、一人ひとりの食事・水分量を把握できるようにしている。また、利用者様の状態に合わせて食事形態を変更したりしている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、義歯洗浄ができない利用者様には介助にて行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄状況に合わせて声掛けしトイレで排泄ができるよう、自立支援を行っておる。また、自尊心に配慮した支援も常に心掛けている。	排泄チェック表は、声掛けのタイミングや排便チェック等に利用している。羞恥心に配慮しながら、そっと声掛けし誘導して、トイレ排泄が出来るよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の確保や車椅子利用者には自操にて少しでも体を動かしていただいている。また、軽作業を依頼し予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調や希望に合わせて自由に毎日入浴できるように声掛け等を実施して支援している。	お風呂は、毎日沸かして準備している。同性介助で、自立利用者は浴室の外からそっと見守りし、手助けが必要な方には浴槽に昇降リフトの設備もあり、安全な入浴介助をしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調に合わせて居室・ホール・ソファ等で休める環境を作り支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設内で服薬手順書を作成し職員全員が意識向上に努めている。また担当者を中心に薬の管理を実施し、服薬時は他職員と確認しながら、誤薬や配薬ミスが無いように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おり紙・トランプ・カラオケ等を準備し常に楽しみを通じて利用者との会話を多くするよう心掛けている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望をお聞きするようにして食事を含めたドライブを天気の良い日に実施している。外出が困難な利用者様には玄関のテラスにて休憩して頂いている。	ユニットごとに季節の花見ドライブに出かけ、時には外食を楽しんでいる。自分で買い物をしたいという利用者には職員と一緒にいる。これからの寒い時期は出かける事も少なくなるが、ボランティアの来訪や「トイレ貸して下さい」と飛び込んで来る学校帰りの小学生との会話を楽しみにしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様一人ひとりの状態に応じて所持していただいています。金銭管理ができる方には好きな物を買に行ける機会を設けている。管理が困難な御利用者様には施設にて立替を行い、後日、利用料と共に請求させていただいている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者様の希望で御家族、親類の方に電話かけ取次ぎを実施する他、手紙の投函の支援も実施している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールには季節感のある花を飾ったり、芳香剤等を置き、リラックスできるように配慮している。利用者様が作成した作品も飾っており、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、トイレや入浴など場所がわかる様に大きく表示するなどの工夫を実施している。	一人で居るよりは、人の姿がある方がいいと、椅子式こたつの食席についてお喋りに花を咲かせている。紙細工のスワンの折り紙の花などを可愛らしく飾り、器用な一面を見せている。窓側に置かれたソファからは、外が見わたせ各々の居場所にもなっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歌番組が好きな方には、録画したものをかけたりトランプ・オセロ等好きな方は職員や、利用者様同士で楽しんでいます。休みになると近くの小学生が来訪され楽しくゲームを行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がご自身のものと認識している衣類や、家具等をもってきていただくよう持ち込みをお勧めしている。思い出に残っている写真などを飾っていただいている。	何でも持ち込み出来るが、広いクローゼットやテレビまで完備している。家族との絆を大切にし、忘れないよう家族との写真は持参してもらっている。担当職員と一緒に掃除し、クローゼットの中の整理も時々行い、清楚で穏やかな暮らしを送っている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入室表示や居室扉の表札、洗面所には自身の物に名前を付けたり工夫している。手すりの設置、居室内での家具の配置等で自立した暮らしができるよう配慮している。		